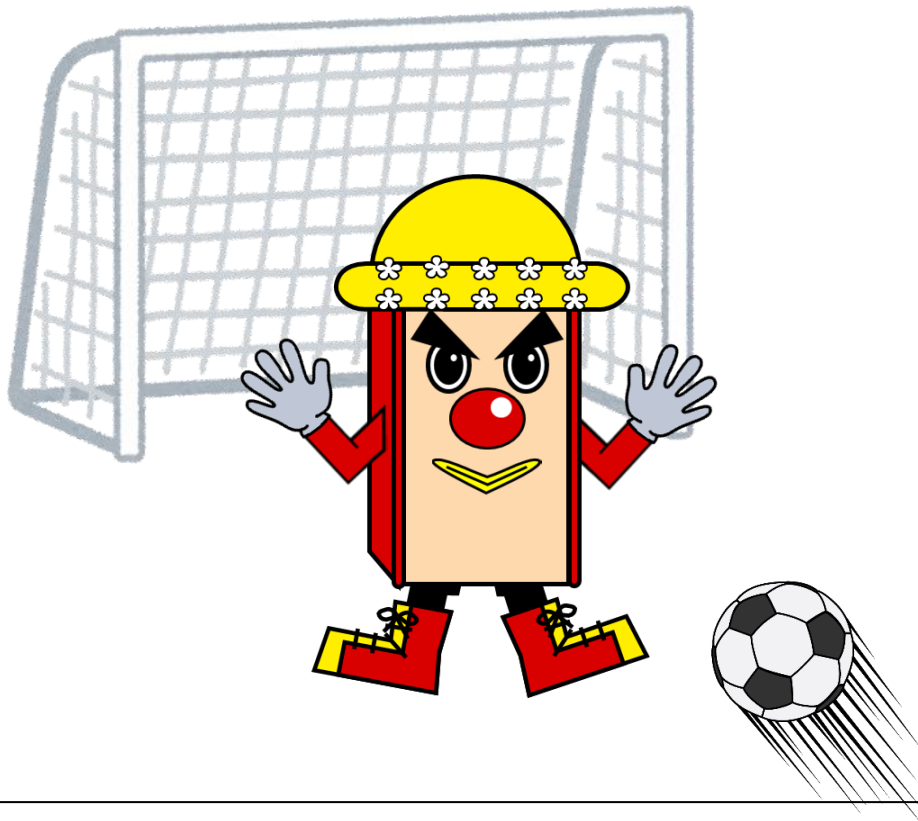


第17回よむゾーくん大賞 受賞作品集



2024年に読んだ本で、「感動した!」、「大好き!」、「これはいい!」など、藤枝市内の学生がおすすめしたい本を文章と絵で紹介する「作品」を募集しました。受賞作品をご紹介します。



藤枝市立図書館に所蔵のある本は、
このボタンを押すと予約のページに移動します。



電子書籍は
ここをクリック

ふじえだ電子図書館に所蔵のある本は、
このボタンを押すと貸出・予約のページに移動します。

市長賞 小学生低学年の部

青島東小学校 2年 寧 夏帆 さん

『英語が好きになる』

関 和之／マンガ・イラスト 旺文社



電子書籍は
ここをクリック



ご予約は
ここをクリック



あなたは英語が好きですか。それともきらいですか。わたしはきらいです。

でもその本を読んだら、わたしはわかりました。その本の中には196か国のうち、64か国も英語をつかっているなんてはじめて知りました。

もしわたしが英語をしゃべれたら世界中の人と友だちになれるのかなぁと思って英語をべんきょうしようと思いました。さいしょの「なんで」が、この本でいろいろ知って、とってもべんきょうになるいい本だと、わたしは思います。

市長賞 小学生高学年の部

岡部小学校 6年 横山 芙雪 さん

『びりっかすの神さま』

岡田 淳／作・絵 偕成社



電子書籍は
ここをクリック



ご予約は
ここをクリック



私は一番が好きです。「だれかより上がいい。自分のがんばりを見えるものにしたい。」だから必死に戦います。私はそれをバカに、笑いものに、されたくないと思います。

この本にはびりにしかみえない人を見るためわざとびりになる子がいます。すると本当にびりな子が怒りました。あたり前です。真剣には真剣で行くのが相手に対する絶対の礼儀だと思います。私はこの考えが互いを尊重することに繋がってほしい。その子は、運動会の後「皆本気で走った。」と。

市長賞 中学生の部

大洲中学校 2年 奥田 向日葵 さん

『推し、燃ゆ』

宇佐見 りん／著

河出書房新社



電子書籍は
ここをクリック



「推し」

人に薦めたい程、好感を持っている人物のこと。あなたに、推しという存在はいるだろうか。主人公・あかりは、生きづらさを感じている高校生。推しのために努力し、働き、推しのために生きる。しかし、そんな生活も突然終わりを迎える。推しが燃えたのだ。遠のいていく推しを受け入れられず、絶望の底にいるあかりを私自身と重ねてしまった。同時に、推しと生き方について考えさせられる。推しがいる人には是非、読んでほしい。

市長賞 高校生の部

藤枝西高校 2年 中住 瑠伽 さん

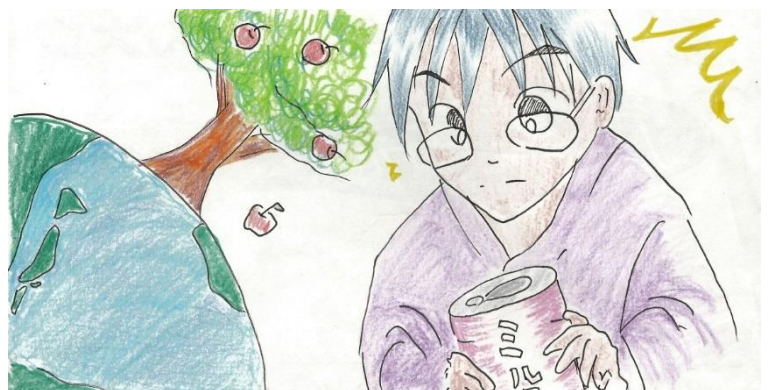
『君たちはどう生きるか』

吉野 源三郎／著

マガジンハウス



電子書籍は
ここをクリック



※電子書籍では漫画版をご用意しています

昨年ジブリの新作映画として話題になっていた事から興味が湧きこの作品を選びました。又、いじめ問題についてどう考え行動すべきかや怖さ故に友達を裏切り自分を守ろうとする愚かさについて考えさせられる作品でした。更に作中では消費する人と生産関係についてなど日々の私たちが生きる世界でも起こり得る社会問題を自ら考え答えを見つけようとする物語でもありました。今も昔も変わらない問題があり、自分を見つめ直すきっかけの一冊です。

教育長賞 小学生低学年の部

青島東小学校 3年 大竹 陽翔 さん

『へいわとせんそう』

たにかわ しゅんたろう／ぶん

Noritake／え

ブロンズ新社



ぼくはこの本を読んで思ったことが二つあります。

一つ目はへいわとせんそうのちがいについてです。

平和というものは、人々があらそわないことで、せんそうは、人々が何かを勝ちとりたいためにやっているということが分かりました。

二つ目は人々のちがいについてです。

人々はすべて同じ人間同じしゅぞくなのにどうしてせんそうをするのでしょうか、ぼくは、ぎ問に思いました。

みんなもこの本を読んでみて。

教育長賞 小学生高学年の部

青島小学校 5年 植田 翔斗 さん

『前島密』

郵便で日本の人びとをつなぐ』

鈴木 悦子／文

石井 勉／画

あかね書房



みなさんは前島密という人物を知っていますか。前島密は、今の郵便制度をつくった人なのです。この本はそんな前島密の人生についてわかりやすく説明しています。前島密は子どものころから大人まで全国をめぐる興味のあることをやり続けていました。

常に自分の意見を持っていて、さらに行動に移せるすごい人です。そんけいします。昔の言葉が出てきてむずかしいけれど読む価値があると思います。どんな意見を持っていたか実際に読んでみてください。

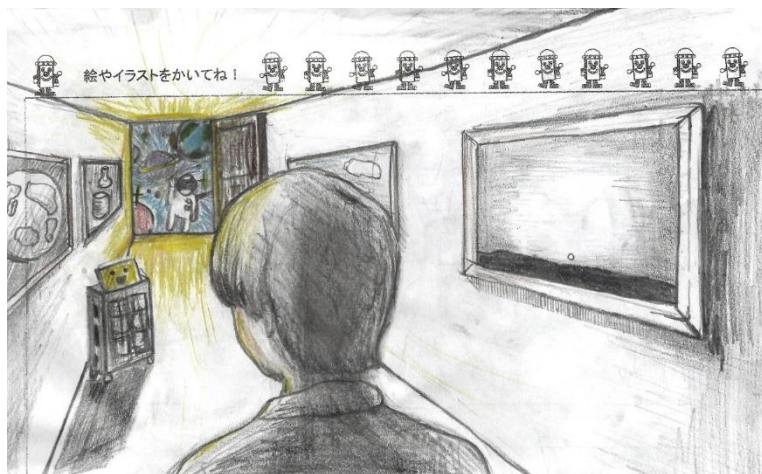
教育長賞 中学生の部

岡部中学校 2年 中西 咲幸 さん

『ぼくは地球を守りたい
二酸化炭素の研究所、始めました』

村木 風海／著

岩崎書店



「ぼくは地球を守りたい」の著者、村木さんは地球温暖化から「地球を守りたい」という思いを持ち、二酸化炭素の研究や自分自身の夢を追っている化学者です。この本の本文中に「学びは冒険」という村木さんの言葉が多く登場します。学びに対して前向きで失敗を糧にし必ず改善する村木さんは、まさに学びの冒険家のように感じました。たくさんの冒険を重ね、夢を追いつける村木さんの姿は私たちの新しい学びになります。ぜひ読んでみてください。

教育長賞 高校生の部

藤枝西高校 2年 滝浪 尚輝 さん

『私の職場はサバンナです！』

太田 ゆか／著

河出書房新社



大好きな動物を守りたい。そんな思いからアフリカで日本人女性初のサファリガイドの太田ゆかさん。彼女のガイドの下、本を読んでいるのにサファリツアーへ参加しているような気分になれます。知られざるサバンナの動物たちの生態や人間と動物が共生していくために大切なことが学べます。親しみやすい口語体で書かれているのでとても読みやすい本です。ぜひ一度この本を読んで「人間と動物」について考えてみてください。

図書館協議会長賞 小学生低学年の部

青島北小学校 3年 小林 怜真 さん

『かあちゃん取扱説明書』

いとう みく／作
佐藤 真紀子／絵

童心社



ぼくは、かあちゃん取扱説明書という本が好きです。その本はガミガミうるさくてケチなかあちゃんの手扱説明書をむす子のでつやが書く本です。

なんでその本が好きなのかというと、むす子のでつやが家族の中で一番いばっているこわいかあちゃんのおつかい方を書いて「食べたいごはんをつくってもらう方法」や「勉強、勉強といわせない方法」をいろいろな方法でクリアしました。

それでさい後にはかあちゃんがトリセツを見たのがおもしろかったです。

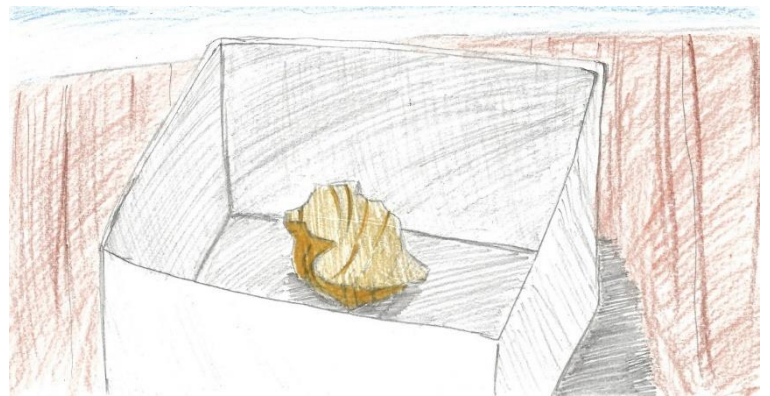
図書館協議会長賞 小学生高学年の部

青島小学校 6年 井上 柚花 さん

『ぼくはうそをついた』

西村 すぐり／作
中島 花野／絵

ポプラ社



私はこの本を読んで、昔の出来ごとを今に伝える大切さを学びました。この本は戦争体験が書かれていて、原爆が落とされたとき、どのくらい力だったのか、どのくらいのはんいだったのかくわしく書いてあります。私はもともと広島県に住んでいて、一年生のころに原爆の授業を受けました。また、原爆が落とされた日にもくとうをする事もありました。そうやって昔起きてしまったことを今に伝えている被爆者の方の話をたくさん聞いていきたいです。

図書館協議会長賞 中学生の部

西益津中学校 1年 前田 悠愛 さん

『大丈夫じゃないのに 大丈夫なふりをした』

クルバウ／著

藤田 麗子／訳

ダイヤモンド社



多くの人が「大丈夫じゃないのに大丈夫なふりをした」経験があるのではないのでしょうか。生きていれば、楽しい事がある分、悩み事もたくさんあります。学校、勉強、恋愛、人間関係など、大丈夫じゃないのに人に気を遣って強がる。素の自分を出したいのに、周りの目が気になって仮面を被り、嫌われない努力ばかりする。そんな人のすぐそばにこの本があったら、気持ちが楽になる心の拠り所になるでしょう。大切な一人時間に、読んでみてほしいです。

図書館協議会長賞 高校生の部

藤枝西高校 1年 渡辺 琴珀 さん

『52ヘルツのクジラたち』

町田 そのこ／著

中央公論新社



「52ヘルツのクジラたち」この本は2021年に本屋大賞を獲得しています。52ヘルツのクジラとは他の鯨が聞き取れない高い周波数で鳴く世界で一頭だけのクジラであり仲間にも声が届かない、何も伝えられない。世界一孤独と呼ばれているクジラを題材とし自分の人生を家族に奪われてきた主人公、貴瑚が母に虐待され「ムシ」と呼ばれていた少年と出会い、誰にも届かない声を届けようとする、とても力強い魂の物語です。